



分娩期の助産師の間接介助者のあり方に関する研究

助産学専攻科

講師 奥山 葉子（おくやま ようこ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4426号室
Tel 0848-60-1179 Fax
E-mail yokuyama@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 助産学

キーワード： 分娩、間接介助、技の伝承、助産師教育

● 現在の研究について

分娩期の助産師の間接介助者のあり方に関する研究

産科医不足や分娩取り扱い施設の減少に伴う周産期提供体制の変遷、少子化、ハイリスク妊娠・分娩の増加などを受けて、地域における安全・安心な妊娠・出産・育児環境の整備が喫緊の課題になっています。女性やその家族が安心・安全に出産したいという気持ちは、いつにおいても当然持っていることです。厚生労働省では、周産期救急医療における「安心」と「安全」の確保に向けて、産科医・新生児科担当医、助産師といった人員の維持や拡充を図ることが提言されています。どれだけ医療が進歩したとしても、出産は、突然異常が起こればやすいのが特徴で、その対応のため多くの場合には分娩介助する者以外の看護職である間接介助者が出産の場にいます。

そこで、分娩期の助産師の間接介助者のあり方について研究し、質的に分析し、以下のことが明らかとなりました。分娩期の間接介助を行う助産師は、自分【助産観】を持ちつつ、それを基盤として分娩の間接介助を実施していたこと、分娩には【間接介助者のあるべき姿勢】で臨み、【直接介助者との関係】を築き、【間接介助者としての動き】をしていました。直接介助する助産師と間接介助の助産師は対等な関係であり、産婦ケアをするという「実践」に取り組んでいました。

この結果から、分娩期に助産師が直接介助者と間接介助者を経験することで、共にケアを振り返

り、学びあい成長していく過程を垣間見ることができました。

これを基に引き続き、助産師が産婦の状況に合わせてどのようにケアを実践し、それを通して助産師がどのように技を習得し、成長していくのかを明らかにしていこうと考えています。その成長過程を明らかにしていくことで、助産師や助産師学生がより良く育っていくことの一助になると考えています。

● 今後進めていきたい研究について

「シミュレーション動画を用いた分娩期の助産診断トレーニングプログラムの開発」の共同研究に着手し始めました。助産師学生が効果的に学ぶことができるためのプログラム開発をこの研究を足がかりに行っていきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

地域の妊産婦に対して、マタニティセミナー講師を行ったり、助産師学生が地域で行う集団の出産準備教育をサポートしたりしてきました。女性がよりよい出産をするためには、健康的な妊娠生活を送ることが大切です。それに貢献できるように、地域の妊産婦や家族に対しての活動に参加していきたいと考えています。

● これまでの連携実績

前任校において、実習施設の助産師とともに、実践の場にある研究疑問を見出し、共同研究を行い、日本助産学会学術集会で報告してきました。

マタニティセミナー講師、救急救命士養成講座の講師、育休父さんのセミナー講師等を行ってきました。